

つなぐ

Vol.32

2019.11月

2019年9月、新たなハイブリットオペ室が稼働を開始した。近年、大きな躍進を遂げている心臓弁膜症等へのSHDインターベンション分野において、新たなハイブリットオペ室の増設は、手術が必要な患者に最適なタイミングで治療を実施することを可能にした。

SHDインターベンションの最も大きな進歩は、経カテーテル大動脈弁留置術「TAVI」だ。2012年に日本へ導入され、当院は来年1,000症例目を迎えるようとしている。現在は、生体弁にTAVIを植え込む「バルブインバルブ」、局所麻酔率95%、パークロウズを用いた大腿動脈へのアプローチなど、私たち独自の技術力を駆使し、早期退院・早期リハビリが可能となる治療を提供している。

TAVIの有効性や安全性が認められ、全国でもTAVIを実施する病院が増加している。当院は九州唯一のTAVI指導施設として、全国的な手術技術の向上に寄与しなければならぬ。カテーテル治療のパイオニア、当院の延吉名誉院長はかつて「自分の技術は隠してはいけない、より多くの人に伝えるべきだ。そうすれば私たちは、追いつかれないようにもつと技術力を磨くことになる」と教えられていた。

私たちはこの信念のもと、これまで様々な技術を公開してきた。それが全国各地の患者の命を救うだけでなく、私たち自身の医療技術の向上につながると信じて。

参加費
無料

第41回 小倉循環器内科セミナー

日時／2019年11月21日(木)19:00～20:30 場所／小倉記念病院 4F講堂 [主催]小倉記念病院 循環器内科



【特別講演】

日本人冠動脈疾患治療の Change Practice

座長：小倉記念病院 副院長 循環器内科 主任部長 安藤 献児

講師：京都大学大学院医学研究科

循環器内科学 教授 木村剛 先生

軽食をご準備しております

参加方法

11月19日(火)迄に、同封しておりますセミナー参加申込用紙に、必要事項をご記入の上、小倉記念病院 医療連携課までFAXにてご返信ください。

医療連携課 FAX.0120-020-027